

海中動物カキ殻を原料とした微量元素を含む理想的な土壌中和資材



くみあい

セルカ

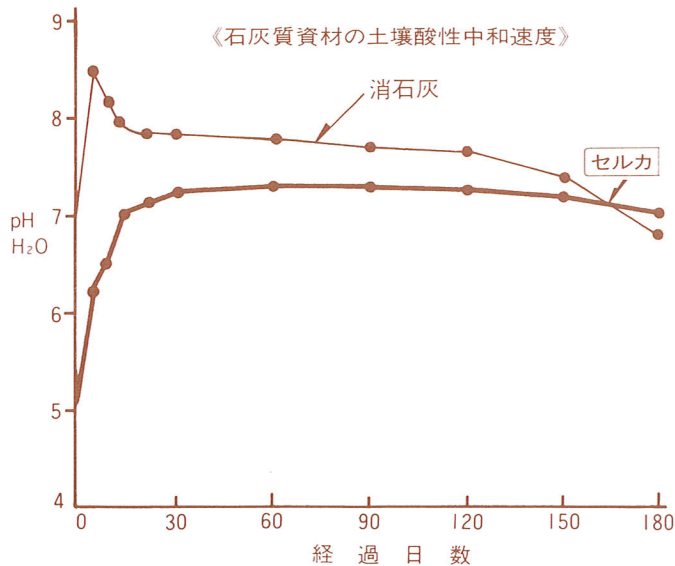
- カルシウムと微量元素の補給
- 酸度の穏やかな矯正
- 連作障害の回避
- 土壌の団粒化
- 肥料効果の助長
- 発根分岐の促進

●カキ殻はこうして出来る

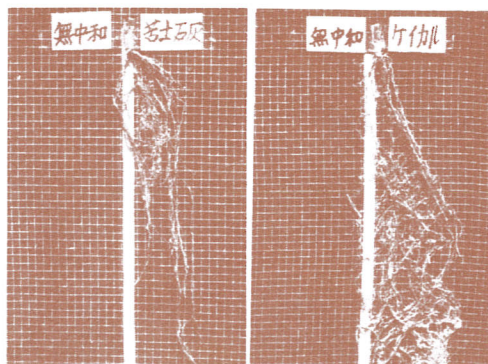
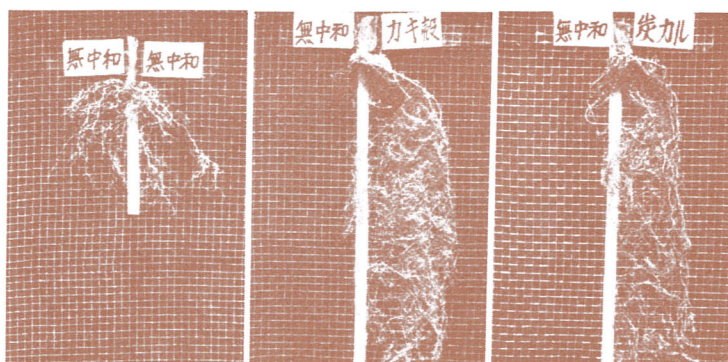
カキは水中で蛋白質と石灰の結合した物を体外に分泌し、その石灰分は、水中の炭酸ガスと化合して炭酸石灰の結晶・殻となりますが、蛋白質は結晶の間に網目状に押し込められコンキオリンという蛋白質になります。また、カキ殻には色々な動物が付着しており、これに基づくチツソも加わります。そのほか殻ができる過程では、海水に含まれているホウソウその他の微量元素が殻の成分として組み込まれて行きます。

セルカの特長

- 1 石灰分のほかにマンガン、ホウ素、亜鉛、鉄、銅、モリブデンなどの微量元素が他の石灰資材に比較して著しく多く含まれています。
- 2 中和効果がおだやかで長期間持続し、また多量に施用した場合でも過剰中和障害を起こしません。



- 3 動物質石灰ですので土を固めません。
- 4 化学肥料と同時施用が出来ます。
- 5 他の石灰資材に比べ作物根の分岐発達を著しく促進します。



《ソルガムの根箱試験における中和資材の種類と根の分布の関係》

●成分内容

多量要素	CaCO ₃ 炭酸カルシウム	N 窒素	P ₂ O ₅ リン酸	K ₂ O 加里	MgO 苦土
(%)	86.0	0.3	0.3	0.2	0.7

微量元素	Mn マンガン	B ホウ素	Zn 亜鉛	Fe 鉄	Cu 銅	Mo モリブデン
(ppm)	300	224	90	343	16	2

セルカの
使いかた

【施用法】 従来の石灰の施用法と同様にお使い下さい。
元肥として作付前に散布し、出来るだけ深耕して下さい。
追肥に使用しても有効です。

【施用量】 土壌pH、土性などによって異なりますが、一応の目安として
10アール当り160～200kg、強酸性の圃場については300kg以上御使用下さい。
水稲には、10アール当り100kgを目安に御使用下さい。